さんきゅうれん　平3の3号　平成3年9月1日発行

山弓連

平3.3

ミニ国体・ざんねん

奮斗空しく　各種別とも代表権逸す

ミニ国体（国体関東予選）は、今年は埼玉県熊谷市で開催。わが山梨勢は、61年かいじ国体以来、62年沖縄、平元年北海道、2年福岡と、連年上位入賞を果たしているので（63年京都を落したのみ）今年も「まず関東予選突破を！」と意気ごみ高く大会に臨んだ。だが「関東の壁は厚かった。

○緒戦は少年男子。優勝候補と目されていたのが逆にプレッシャーとなったか、近的前半が8中と意外な不調。後半10中と追い上げたが、時すでに遅く、五位にとどまる。遠的も的中伸びず17中で五位。落選。渡辺君がひとり7中・7中と、やや実力を出しきったのだったが……。

○続いて少年女子。近的前半6中と、これまた不調。後半も調子戻らず7中では如何ともなし難し。七位。これでガックリ。遠的は8中と予想もしなかった成績で、八位。

○成女一部は、ベテラン組だけに「波にのれば」と期待。近的13中で、千葉との同中競射で敗れ五位となる。（この千葉が遠的二位となり、総合得点で代表権を獲得したのだから、この競射敗戦が痛かった。）遠的は、あきらめた感じになって、9中七位。万事休す。

○成女二部は最も期待が大きかった。近的前半は8中でトップ。しかし後半崩れて5中が痛かった。それでも13中は二、三位決定の競射となり、これに勝てば希望が大きくふくらむことになるので、手に汗をにぎってその結果を見守っていた。しかしこの競射に敗れて三位。これで気落ちしたか、遠的は11中で六位と後退。総合五位で落選。

かくして、今年は残念ながら全種別敗退し、無念の涙をのむ。県計成績は下表の通り。

✿	近的		遠的		総合	関東代表
	的中	順位	的中	順位	順位	
少男	18	5	17	5	5	埼玉　栃木
少女	13	7	8	8	8	茨城　埼玉
成女1	13	5	9	7	7	神奈川　千葉
成女2	13	3	11	6	5	神奈川　埼玉

ことしは開催県埼玉が地元の利を生かして、3種別を取った。来年の開催県は山梨。3種別といわず、4種別全部いただくゾ。

アッパレ塩島選手　関東選抜大会三位入賞

9月1日、ところは東京武道館。関東の精鋭が勢ぞろいして標記大会が開催され、山梨からも、有段者5人、称号者5人が代表として出場した。その中で塩島健二選手は、日頃の実力を存分に発揮し、6射皆中で優勝決定の射詰め戦に進み、三位に入賞した。（本人の反省の弁「射詰めの途中で気が弱くなってしまって」と。この弱気がなければ彼の力からして優勝も夢ではなかった筈。）しかもその上に、「技能賞」をも獲得した（最高得点賞）のだから、リッパという他はない。おみごとでした。

なお、全体の成績県計は次表の通り。（的中数）

種別／地区	有段	称号	計
茨城	19	19	38
栃木	25	20	45
群馬	17	17	34
千葉	19	19	38
埼玉	21	20	41
東京一	18	26	44
東京二	19	17	36
東京三	17	20	37
神奈川	18	25	43
山梨	20	13	33

右の本県代表選手は次の通り。

・有段の部

和智一雄、荻井英紀、塩島健二

宮崎良行、土橋亨

・称号の部

標興次、滝沢忠、永井秀太郎

宮下貞雄、内藤幸雄

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

オメデトウ

錬士合格　中村ミツ子さん

7月14日、北海道美唄市でおこなわれた臨時中央審査で、みごと錬士合格。伝聞によれば（某審査員の評）「おトシを感じさせぬ若々しい射であった」とぞ。北海道は中村さんの出身地。ふるさとで咲かせた花をだいじに育てて下さい。

全日本男女弓道選手権大会

9月20～23日に開催されるこの大会には、本県代表として次の名が出場する。

上條皎　佐野辰巳

標衣枝　藤巻昭子

毎年予選通過者を出しているので、ことしも期待できそう。各選手のご健斗を祈る。

伝達講習

今年は新しい試みとして、峡南、峡東、郡内の三か所で開催した。成果としては（従来の甲府一か所開催と比較して）

1、受講人数がふえた。（峡南17、峡東8、郡内20、計45名）

2、新しい顔ぶれがふえた。

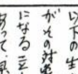
3、新鮮な傾向が出たりして活発な雰囲気になった。など。

しかし一方で、本来最も必要な「称号者の出席」が少なかったのが気になる。伝達講習は、弓連の指導方針を地方の指導者に伝達するのが本来の目的なのだから。

講習会は花ざかり

中学生講習

かいじ国体準備期から始まったこの講習会も、既に十年以上続いている。ことしも8月1～3日県営弓道場で、6校から35名の中学生が参加して行われた。平成8年に山梨で開催されるインターハイの選手は、今の中学一年生以下の生徒がその対象になることもあって、県※　※教委も中学生対策に熱心。各校（6校）からも顧問の先生が全員参加して熱心にメモを取っていた。



今年の特徴は生徒個々の技術の差が大きく（上は初段なみ、下は全くの初心者）指導がしにくかった。今後運営について工夫を要する。

高校教員講習

これも今年、初の試み。「顧問の弓技（指導力も含む）の向上が高校弓道の進歩に※　※つながる。」ことを目ざして各高校弓道部顧問全員を集めて行われた。但し、諸般の事情から今年は高体連主催とした。講師は今村範士を特別にお願いし好評だった。

連合審査　7/7

2年ぶりに本県開催。受審者一〇三名。群馬、埼玉、東京、長野、静岡からも多数の受審者がある中で、山梨からは三〇人受審。たった二本の矢の出来ぐあいで合否が分かれるとあって、誰もが真剣そのもの――出来ることなら全員合格をと願っていたが……。審査員の目は厳しく、合格は一二名（内、山梨は四名）加藤欽哉

辻栄治、長沢尚権、志村重治

しかし審査に出来不出来はつきもの。今回の不合格にくさらず、更に次のチャンスを狙って精進して※

※下さい。近県の連合審査にも、どんどん受審して下さい。ちなみに、今年の近県の連合審査で五段合格者次の通り。

6/9（東京）望月孝美

6/23（千葉）松田恭昭

あとがき

前号に「梅雨晴れの広さを飛べる一機あり」という句（らしきもの）を載せたら、二、三の人から質問がありました。曰く「あれは山梨の弓のことを批判したものか」「作者は誰か」等々。隅から隅まで目を通して下さったこと感謝します。しかし、あまりうがった読み方をしなくても――作者の勝手な思いだけなのだから。作者はあくまでも「不知読人」。だが思いがけない反響があったので　ヒトコトだけ。